

構造特記仕様書

1. 一般共通事項 (1) 設計図書優先順位は次の通りとする。 (2) 特記仕様は ●印のものも使用する。 (3) 図面および本特記仕様書に記載されていない事項は、すべて下記の日本建築学会発行の図書による。 (4) 施工に先立ち以下の書類を工事監督官(以下監理者)と締結し、確認及び指示を受ける。 (5) 鋼製設計条件 (6) 鋼材仕様 (7) 鋼材の引張強さ (8) 鋼材の圧縮強さ (9) 鋼材の断面係数 (10) 鋼材の断面係数 (11) その他

参考図

現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。

H10.04.01 訂正 (H10.07.15 訂正)

鉄筋コンクリート造配筋標準図その1

**1. 一般共通事項**

(1) 鉄筋の表示記号  
鉄筋の断面表示は下記の記号による。  

種類	D10	D13	D16	D19	D22	D25
表示記号	○	△	×	◇	□	◇
種類	D29	D32	D35	D38	D41	
表示記号	◇	△	◇	×	◇	

(2) 鉄筋のかぶり厚さ (mm)

部位	環境別	鉄筋の種類	設計のかぶり厚さ	
			最小	最大
土に接しない部分	1	普通スラブ	室内	30
			屋外	30
		片側力壁	室内	40
			屋外	40
土に接する部分 <sup>1)</sup>	1	柱・梁・スラブ・壁	室内	40
			屋外	40
		基礎の立上り部分	室内	50
			屋外	50
基礎・地盤	70			

1) 柱・梁・スラブ・壁等の露出部分に適用する。

2) 柱・梁・スラブ・壁等の埋込部分に適用する。

3) 柱・梁・スラブ・壁等の埋込部分に適用する。

4) 柱・梁・スラブ・壁等の埋込部分に適用する。

5) 柱・梁・スラブ・壁等の埋込部分に適用する。

6) 柱・梁・スラブ・壁等の埋込部分に適用する。

(注) 1) 柱・梁・スラブ・壁等の埋込部分に適用する。

(3) 鉄筋の最小間隔と向き  
鉄筋相互のあきは以下のうち最大のものとする。  
 1)  $a = 25\text{mm}$   
 2)  $a = 1.25 \times$  粗骨材最大寸法  
 3)  $a = 1.5d$  ( $d$ : 鉄筋の呼び名の数字)  
 鉄筋の間隔  $P = a + D1$  ( $D1$ : 最外径)

種類	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
$D1$	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46
$a$	32	32	32	32	33	34	44	48	53	57	62
$P$	43	46	50	53	58	66	77	84	93	100	108

(注) 1. 上記の表は、粗骨材最大寸法25mmの場合を示す。  
2. \*印は粗骨材によって間隔が決定されたものも示す。

(4) 鉄筋の折角形状及び寸法  
① 隅部 (フック形状)

折角角度	鉄筋の種類	鉄筋径	内径(D)
180°	SD295A SD295B SD345	D16以下	3d以上
135°	SD390	D19 D25 D38	4d以上
90°	SD390	D16 D41	5d以上

② 設計図に特記のある場合は、下記鉄筋の末端部にフックを設ける。

1) 180°, 135°, 90°

2) フックの形状は、片側力壁を除く。  
 ・ 柱・梁・スラブのU字形スタップのキャップタイプ  
 ・ 柱・梁・スラブの片側力壁の片側力壁用スタップ  
 ・ 柱・梁・スラブの片側力壁の片側力壁用スタップ

3) 柱・梁・スラブの片側力壁の片側力壁用スタップの先端

(5) 鉄筋の定数及び重ね手長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	重ね手の長さ L <sub>1</sub>	重ね手の長さ L <sub>2</sub>	定数の長さ	
				一般	下懸
SD295A SD295B SD345	27 30 33 36	35d (25d)	30d (20d)		
SD390	18	45d (35d)	40d (30d)	10d	かつ 150mm以上
	27 30 33 36	40d (30d)	35d (25d)		
SD390	21 24	45d (35d)	40d (30d)		
	27 30 33 36	40d (30d)	35d (25d)		

(注) 1. ( ) 内は、フック長さも示す。  
2. 値の異なる鉄筋の重ね手長さは、鉄筋の呼び名 (d) による。  
3. 末端のフックは、定数及び重ね手の長さから生ずる。  
4. D29以上の鉄筋は、引張時除色処理として重ね手とし、引張り鋼としても使用する。

(6) 鉄筋の重ね手  
① ガス圧接のずらし方  
a. ガス圧接のずらし方  
② 重ね手の長さ  
a. 重ね手の長さのずらし方  
③ 定数  
a. 定数

(注) 鉄筋径の差が7mmを超える場合は圧接してはならない。

(7) 溶接鋼筋の定数と重ね手  
① 定数  
a. 定数

(8) その他  
① 打ち継ぎ  
a. 打ち継ぎの位置・形状は特に指定がない限り、特別の場合、梁・スラブおよび基礎スラブでは、その中央付近に、柱・梁・スラブの露出部分には梁の下側に、水平または垂直とする。

b. 打ち継ぎ高は、レイタンスおよび鉄筋コンクリートを取り除く、またはコンクリートを露出させ、コンクリート打ち込み時に十分な水濡しを行う。

② コンクリートの打ち継ぎ  
a. 外側の打ち継ぎ : 外側を形成する柱・梁・壁は、外側に厚さ ( ) mm の打ち継ぎとする。  
b. 床モノリシック工法の打ち継ぎ : ( ) mm とする。  
c. 土中での打ち継ぎ : 土に接する部分の柱・梁・壁は、土中に厚さ ( ) mm の打ち継ぎとする。

③ 鉄筋の曲げ  
a. 曲げ半径は、鉄筋径の10倍以上とする。  
b. 曲げ半径は、鉄筋径の10倍以上とする。

(9) 柱  
(1) 柱筋の長尺・定数及び重ね手位置  
① 柱筋の長尺・定数及び重ね手位置  
② 柱筋の長尺・定数及び重ね手位置

(10) フープの形状  
① フープの形状  
タイプ A, B, C, D  
タイプ E (スパイラルフープ)

(注) 1. タイプBのLは両面溶接5d。片側溶接10dとする。(石目参照)  
2. タイプCは大口筋同士とする。

(11) 柱の鉄筋の長尺・定数及び重ね手位置  
① 柱筋の長尺・定数及び重ね手位置  
② 柱筋の長尺・定数及び重ね手位置

(12) フープの形状  
① フープの形状  
タイプ A, B, C, D  
タイプ E (スパイラルフープ)

(13) 柱の鉄筋の長尺・定数及び重ね手位置  
① 柱筋の長尺・定数及び重ね手位置  
② 柱筋の長尺・定数及び重ね手位置

参考図

現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。

・ 使用しない項目には X 印を記入する。

### 3. 梁

(1) 梁筋の配置位置  
主筋本数の少ない位置に投げる。  
主筋の配置位置を示す。

特記は色塗り  
大梁はタイプ  
小梁はタイプ  
各種梁はタイプ  
各種小梁はタイプ

※等価換算の場合はタイプCとする

タイプA  
タイプB  
タイプC  
タイプD  
タイプE (小梁)

(2) 梁筋の長さ  
①大梁、基礎梁

②小梁、基礎梁

②小梁  
a. 連続梁の場合

b. 単スパン梁の場合

(3) 定着  
①柱への定着  
a. 梁の定着

外壁部の場合  
一般部 (一般部) (取上層)  
連続したU型筋を用いた場合 (一般部) (取上層)  
連続部の場合 (取上層・一般部)

(注) 1. 折り上げ筋は柱中心線を中心とした位置とする。  
2. 下階筋も下向き定着とする場合、監理者の承認を得る。  
3. 柱幅が大きく、取上層筋でL2がとれる場合でも柱中心線を中心とした中間折り上げ筋でフェール長をd以上とする。(右図参照)

柱幅が大きい場合

b. 基礎梁の定着 (一般部の場合) (ベタ基礎、布筋礎)

(注) 1. 折り上げ筋は柱中心線を中心とした位置とする。  
2. ベタ基礎など地反力を受ける基礎小梁の定着も同様とする。

c. 段差のある場合  
e ≤ D/6 の場合 (鉛直に違いの場合) (水平に違いの場合)  
e > D/6 の場合 (一般部) (取上層) (取上層)

d. 片持梁と連続する場合 (一般部) (取上層)

※印の梁の主筋は半数以上を折上げて定着させる。但し、SRCの場合は全数通し配筋としてよい。

②梁への定着  
a. 一般部の場合  
折って筋を通す  
折らぬ筋は折らぬ筋としてよい  
折らぬ筋は折らぬ筋としてよい  
折らぬ筋は折らぬ筋としてよい

(注) ※は、大梁の場合L2と折り替える。

b. 段差のある場合  
e ≤ D/6 の場合 (一般部) (取上層)  
e > D/6 の場合 (一般部) (取上層)

(注) ※は水平に違いの場合にも適用する。

c. 打ち増し部への定着

d. 基礎小梁の外壁部片持梁への定着  
基礎小梁  
片持梁筋  
折り上げ  
L: 上階筋L2  
下階筋L3 (水平断面)

(4) 片持梁  
①一般部と連続する場合 (一般部) (取上層)  
②一般部と連続しない場合 (一般部) (取上層)

(5) ハンチ梁  
① e/a ≤ 1/6 の場合 (一般部) (取上層)  
② e/a ≤ 1/6 の場合 (一般部) (取上層)

(6) スターラップの折り付け  
折り上げ筋 (スターラップ) (折上げ筋)  
折り上げ筋: スターラップ4層、2本巻とする。

(7) 梁筋の折まり  
※小梁の接合部は原筋を直さなくてもよい。

(8) スターラップ形状  
①スターラップ形状  
A B C D E  
1) Dの溶接長さLは、両面溶接5d、片面溶接10dとする。(右図参照)  
2) Bは最大溶接長さとする。  
(注) 1. 原筋として、Aとする。スラブと同様に打ち込む形での場合は、B、C、L形梁の場合は、Cとすることができる。  
2. Aの場合フックの位置は、原筋として交互とする。

②折上層スターラップ形状  
特記は色塗りB、CのうちのB、Cとする。

(注) 1. 二層溶接工法での採用には、監理者の指示・承認を要する。

③溶接部の場合  
基礎梁も原筋として①一般部の場合によるが、梁せいの大きい場合は下記の配筋も可とする。

(注) 1. 打ち増し部補強  
日印は打ち増し部を示す。

④上層打ち増し部 (D10@200) (D10@200)  
⑤下層打ち増し部 (D10@200) (D10@200)

・ a ≤ 60 : 補強筋不実  
・ 60 < a ≤ 300 : ※印はD16  
・ a > 300 : 設計図による

(10) 柱筋と梁筋が同一になる場合の納まり (平面) (断面)  
※柱主筋を折上げスターラップ幅を小さくする。

### 4. 壁

(1) 壁筋の定着  
①柱・梁への定着  
a. 柱  
L2かつ中心線を通す  
L2かつ中心線を通す

b. 梁  
L2かつ中心線を通す  
L2かつ中心線を通す

②折上層筋の折角部、交差部の定着  
a. シングル配筋の場合  
D13  
L2  
L1  
L2

b. ダブル配筋とシングル配筋の場合  
L1  
D13  
L2  
L1  
D13

c. ダブル配筋の場合  
D13  
L2  
D13  
L2  
D13  
L2  
L2

③スラブへの定着  
L2  
D13  
L2  
L2  
D13  
L2  
L2

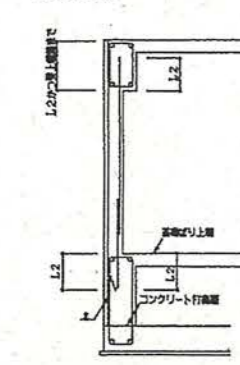
④壁筋部の定着  
a. 耐力壁 (EW, RW) の場合  
L2  
L1  
L2  
L2  
L2  
L2

b. 非耐力壁の場合  
D13  
D13

参考図

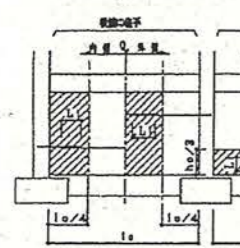
現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先して考えて頂きます様、お願い致します。  
(R10.07.15 現在)

④土圧抵抗(RW)の定置及び配筋位置  
a. 壁への定置

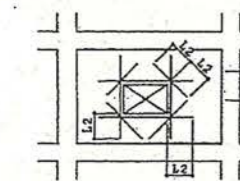


\*地下外壁の外側鉄筋の基礎梁への定置長さは、規定長さでよいが、約1mごとに配圧スラブの上層まで下げるなど鉄筋位置確保に有効な工法とする。

b. 土圧抵抗(RW)の配筋位置  
配筋の継手可動位置を示す

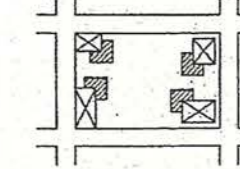


(2) 開口部  
①開口部補強の定置

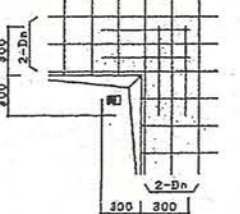


(注) 1. ひび割れ防止筋は別に配筋する。  
2.  $a \leq 200$  の場合は、等価(一)で示した補強は不要とする。  
3. 壁厚が150でダブル配筋の場合は、斜筋不要とする。  
4.  $200 \times 200$  以下の開口部については、縦筋は開口部をさけて配付した場合は、補強筋は不要とする。

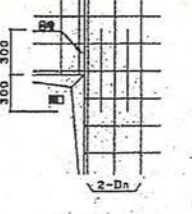
②ひび割れ防止筋(内壁・外壁共)



a. 開口部なしの場合



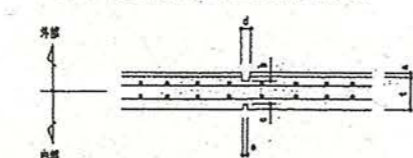
b. 開口部ありの場合



ひび割れ防止筋を示す。

(注) 1. ひび割れ防止筋は、鉄筋の位置に配筋する。径Dは鉄筋と同じとする。交互配筋の場合は太い径とする。  
2. ひび割れ防止筋は、壁厚のピッチ1.25以下の場合は不要とする。  
3. ひび割れ防止筋は、基礎梁の断面を受け、鉄筋品を用いることができる。(但し、壁厚150mmでダブル配筋の場合は、鉄筋品の使用は不可とする。)

(3) 外壁収縮(乾燥)目地  
外壁収縮(乾燥)目地は、縦目地3.0mピッチ程度に設ける。



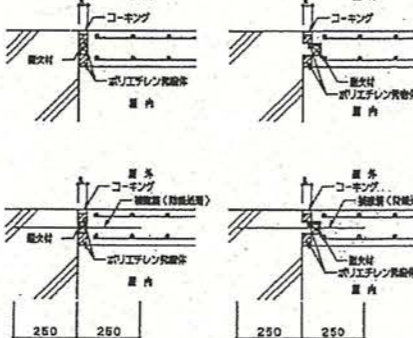
(注) 1. 内目地を設けられない場合、および、打ち直し厚が20mmを超える場合にも、収縮目地の断面欠損率は、打ち直しも含めた壁厚の20%以上とする。  
2. パラペット及び外部手摺も含む。

t	a	b	c	d	e	番号
120	20以下	20(15)	10(15)	20以上	20	
150	20以下	20	15	20以上	20	
180	20以下	20	20	20以上	25	

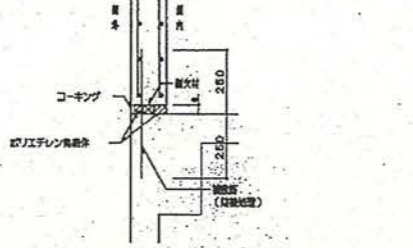
(4) 構造目地  
構造目地の場所は設計図による。スリット材は既製品とする。

①完全スリット型

a. 鉛直スリット



b. 水平スリット



部位	a (mm)	補強筋	番号
鉛直スリット			
水平スリット			

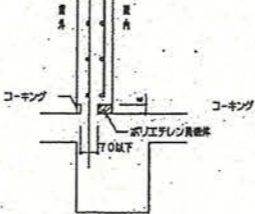
②部分スリット型

a. 鉛直スリット



壁厚	a (mm)	番号
150		
180		
200		

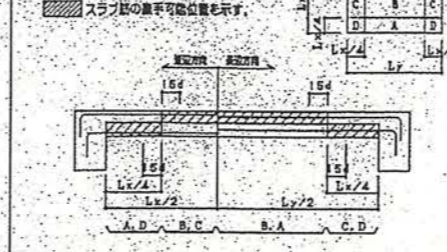
b. 水平スリット



壁厚	a (mm)	番号
150		
180		
200		

5. スラブ

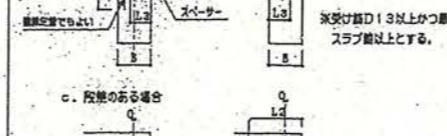
(1) スラブ厚の余量及び配筋位置



(2) 定置

①開口部スラブ

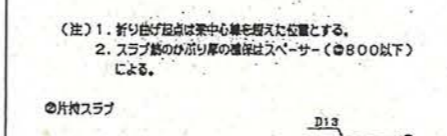
a. 外壁



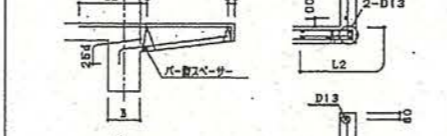
b. 内壁



c. 片持スラブ



d. 打ち直し厚への定置



(注) 1. 折り上げ筋は梁中心線を超えた位置とする。  
2. スラブ厚のみ筋の確保はスペーサー(φ800以下)による。

②片持スラブ

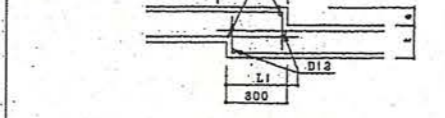


③スラブ厚増しの筋位置

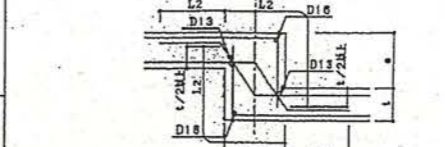


(3) スラブ厚増しの筋位置

①厚さ e ≤ t - 80 の場合



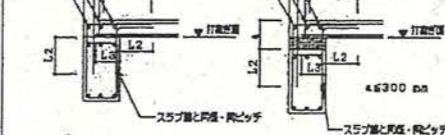
②厚さ e > t - 80 の場合



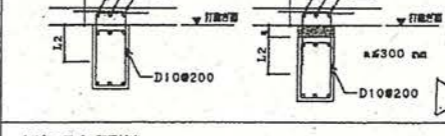
(注) e > 300 の場合は設計図による。

(4) 配筋と基礎梁の打ち直し補強筋

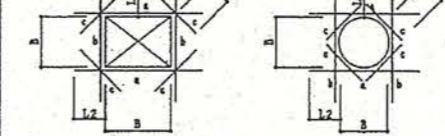
①外壁



②内壁



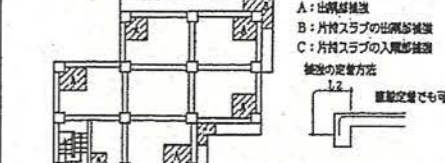
(5) スラブの開口補強



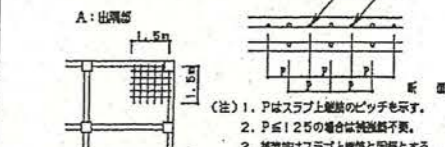
B	スラブ厚(t)	a, b	c
B < 400	200以下	2-Dm <sup>1)</sup>	1-D13
B < 400	200以上	3-Dm <sup>1)</sup>	2-Dm <sup>1)</sup>
400 ≤ B < 700		3-Dm <sup>1)</sup>	2-Dm <sup>1)</sup>

1) Dmは折断するスラブ筋の最大径とする。  
(注) 1. 200x200以下の開口部については、スラブ筋は開口部をさけて配付した場合は、補強筋は不要とする。  
2. Bが700以上の場合は設計図による。

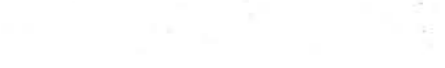
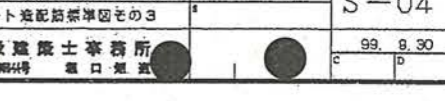
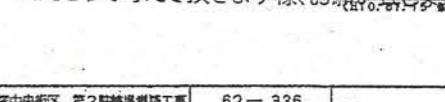
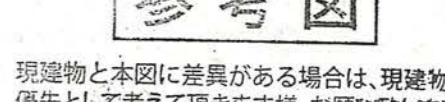
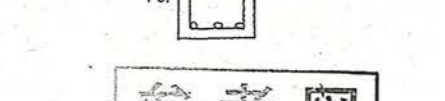
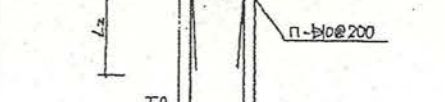
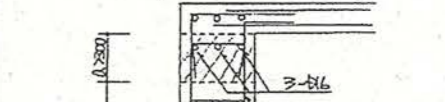
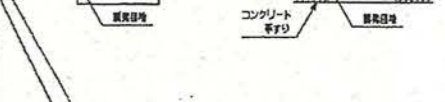
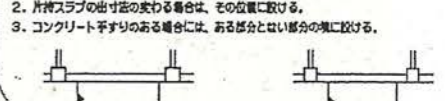
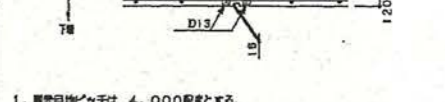
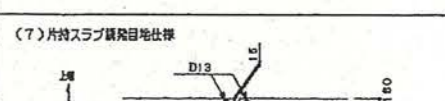
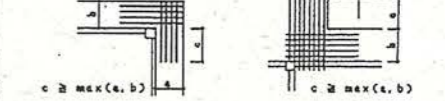
(6) スラブの出入隅部補強(角隅共置)



(7) 片持スラブ隅部目地仕様



1. 隅部目地ピッチは、4,000程度とする。  
2. 片持スラブの出寸が変わる場合は、その位置に設ける。  
3. コンクリート平すりのある場合には、ある部分にはいっしょに隅部目地を設ける。



使用しない項目にはX印を記入する。

鉄筋コンクリート造配筋標準図その4

### 6. 基礎

(1) 基礎スラブ筋の納まり  
① 基礎配筋  
a. 一般の場合  
b. 偏心する場合

② ベタ基礎 (PS: 配圧スラブ)  
a. 配圧スラブ筋の納まり及び配筋位置  
b. 先端  
c. 連続部

③ 杭基礎  
a. 一本杭の場合  
b. 杭が2本以上とれる場合  
配筋する場合  
はかみ筋の納まり

(2) 基礎と基礎梁の納まり

### 7. 杭

(1) 集約行コンクリート杭  
(2) 既設杭  
① PC杭又はPHC杭  
a. 杭頭が所定の位置に止まった場合  
b. 杭頭が所定の位置より深く止まった場合

杭径	300φ	350φ	400φ	450φ	500φ	600φ	800φ
杭筋径	5-D13	6-D13	6-D13	8-D13	8-D13	9-D13	9-D13

\*a > 4φの場合は、監理者の指示を受ける。

### 8. 梁貫通補強

(1) 大貫通補強  
① 大貫通補強  
② 貫通孔部及び貫通孔部  
③ 貫通孔部補強  
④ 貫通孔部補強  
⑤ 貫通孔部補強

貫通孔径	φD/3 又は φD/4 とする				
	D<450	D<450 <800	800<D <750	750<D <900	900<D <1200
φ50	C	C	C	C	C
50<φ<100	A	C	C	C	C
100<φ<150	A	C	C	C	C
150<φ<200	A	A	A	A	C
200<φ<250	A	A	A	A	A
250<φ<300	A	A	A	B	B
300<φ<400	A	A	A	B	B
400<φ<500	A	A	A	B	B
500<φ<800 (大貫通)	A	A	A	B	B

1) D≧1,000のときはD13 (シングル) とする。

(注)  
1. 補強スタップは、一般部スタップと同様・同径・同間隔以上とする。  
2. 貫通スタップは、補強スタップと同径・同間隔ダブル巻きとする。  
△、△は下表の補強による。

補強孔径	補強筋	補強筋径	補強筋間隔	補強筋位置	補強筋長さ	補強筋形状

⑥ 既設品による補強  
A, Bを既設品により補強を行う場合は、補強要領および計算書を監理者に提出し、承認を受ける。

### 9. 階段

(1) 両側と両手  
① 片側スラブ階段  
② 一方向スラブ階段

## 参考図

現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。

H10.04.01 改訂  
(H10.07.15 再改訂)

・使用しない項目には×印を記入する。

1. 溶接基準

2. 高力ボルトおよびボルトのピッチ・ゲージ

3. デッキプレート

4. S梁貫通補強

5. 頭付きスタッド

6. その他

共通事項

(1) 特記なき限り、本標準図はアーク手溶接及びガスシールドアーク半自動溶接に適用する。

(2) ルート開削Gの「」内の数値は、ガスシールドアーク半自動溶接に適用する。

(3) 本標準図において、茶印の部分はT/4以上、最大10mmまでのすみ肉溶接を付加する。

(4) 不明な部分の形状は、下記とする。  
(但し、クレーンゲージの場合はbを採用する事)

(5) すみ肉溶接の幅は、まわり溶接とする。

(6) スカラップの形状及び大きさは、原則として下記による。

(7) 突合せ溶接部、および部分溶接の両端には健全な溶接が出来るように、母材と母材・肉厚・両側形状のエンダップを取り付ける事を原則とする。又、エンダップは、前より上突合がある場合には、母材および溶接部に損傷を与えないように5~10mm程度削り取り、研削してグラインダー仕上げとする。

注) 上記以外の仕様(フラックススタブ、ゲージスタブ)による場合は、監理者の承認を受ける事。

表: 高力ボルトおよびボルトのピッチ・ゲージ (mm)

ボルト径	M12	M16	M20	M22	M24
ピッチ	50	80	100	120	150
ゲージ	25	40	50	60	75

表: S梁貫通補強

梁径 (mm)	300	350	400	450	500	550	600	700	750	800	850	900	950	1000
補強板厚 (mm)	10	12	14	16	18	20	22	25	28	30	32	35	38	40

表: デッキプレート

最大寸法 (mm)	40	45	50	55	60	70	75	80	90	100	120	130	150	175	200
厚さ (mm)	22	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90

表: 頭付きスタッド

高さ (mm)	150	180	200
径 (mm)	φ50	φ50	φ50

参考図

使用しない項目にはX印を記入する。

現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。

# 川建QLデッキ合成スラブ設計・施工標準

川建QLデッキ合成スラブの設計・施工は、日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」、鋼材協会「デッキプレート取付構造設計・施工標準」、川建QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

## 設計

### 材料/デッキプレート

デッキプレート種類	規格記号	
鋼製デッキ	QDL99-50-12 QDL99-75-12	QDL99-50-16 QDL99-75-16
鋼製デッキ	QDC99-50-12 QDC99-75-12	QDC99-50-16 QDC99-75-16
鋼製デッキ	QDX-75-12 QDX-75-16	QDX-75-16

### 材料/コンクリート

種類	規格記号	規格記号
設計基準強度	210	200
標準(デッキ上)	210	200

### 材料/溶接金網・鋼筋鉄筋

溶接金網	JIS G 3551	規格記号	規格記号
鋼筋鉄筋	JIS B 3112, 3117	規格記号	規格記号

### 接合

溶接金網	JIS B 1198	規格記号	規格記号
鋼筋鉄筋	JIS B 1198	規格記号	規格記号

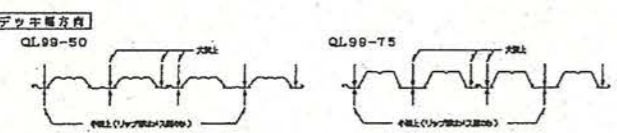
### 耐火

耐火時間	1時間	2時間
構造支持	RC(F1001)	RC(F2001)
非構造支持	RC(F1002)	RC(F2002)

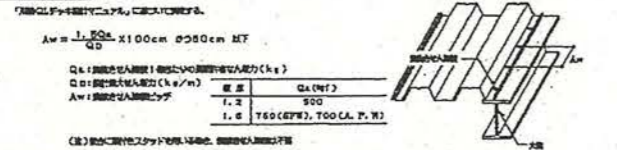
### 特記

その他	RC(F1111) (RC(F1001)より20mm)	RC(F2111) (RC(F2001)より25mm)
-----	-----------------------------	-----------------------------

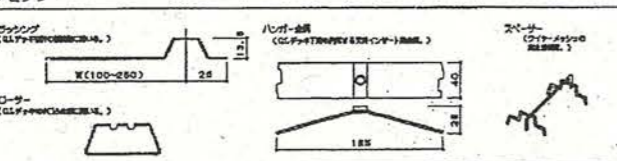
### 焼結せり波接合



### デッキシフト

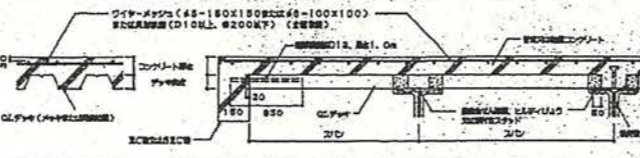


### アクセサリ



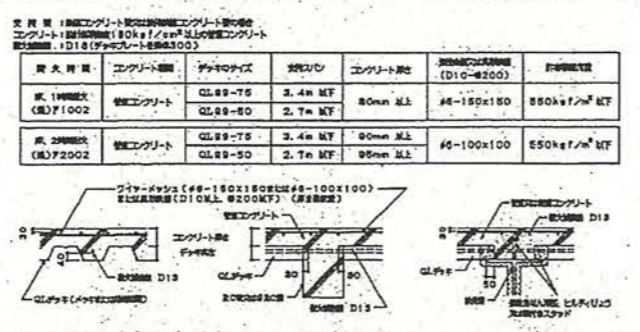
### 耐火仕様

耐火仕様	コンクリート種別	デッキプレート	コンクリート厚	コンクリート種別	コンクリート厚	コンクリート種別	コンクリート厚
RC(F1001)	RC(F1001)	QL99-75	3.0m MF	RC(F1001)	80mm 以上	45-100x100	450kgf/cm <sup>2</sup> MF
	RC(F1001)	QL99-50	3.0m MF	RC(F1001)	80mm 以上	45-100x100	550kgf/cm <sup>2</sup> MF
	RC(F1001)	QL99-75	3.0m MF	RC(F1001)	70mm 以上	45-100x100	400kgf/cm <sup>2</sup> MF
	RC(F1001)	QL99-50	3.0m MF	RC(F1001)	70mm 以上	45-100x100	400kgf/cm <sup>2</sup> MF



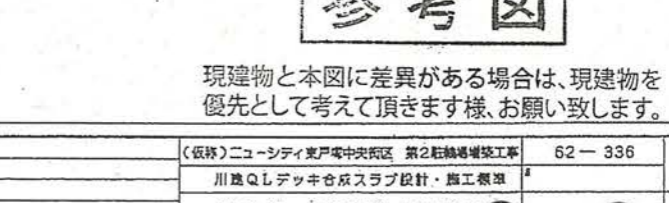
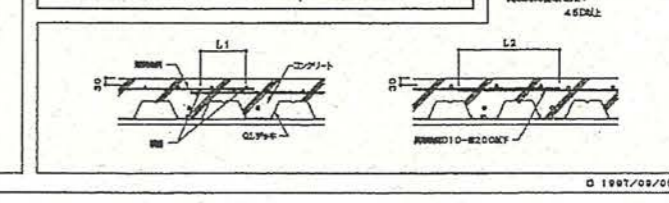
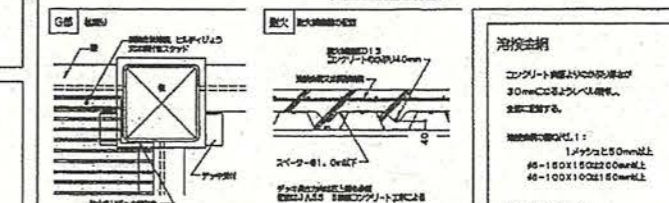
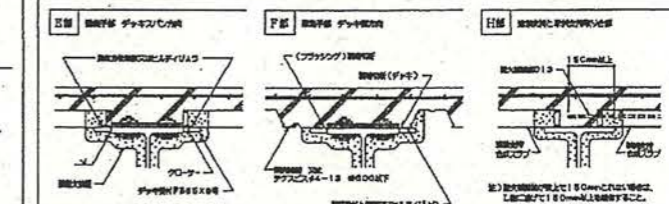
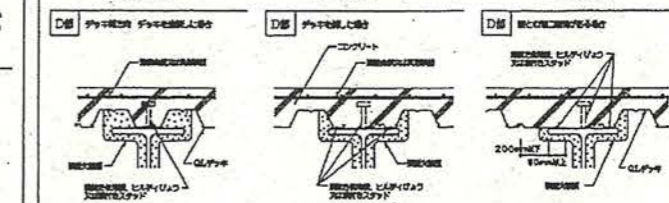
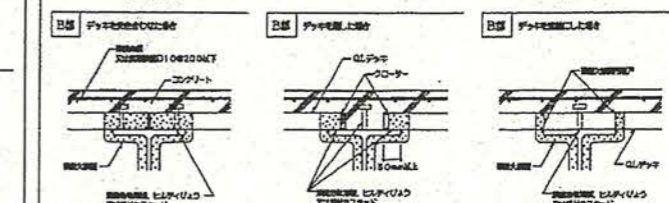
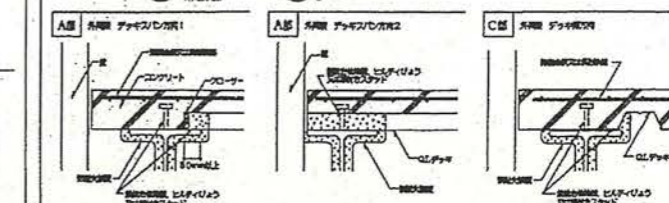
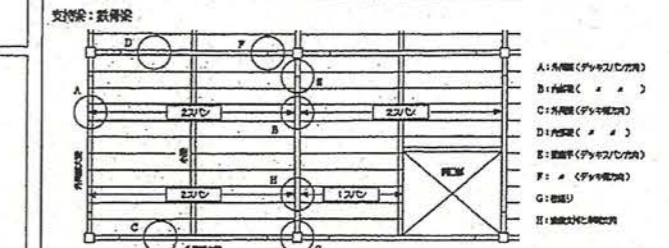
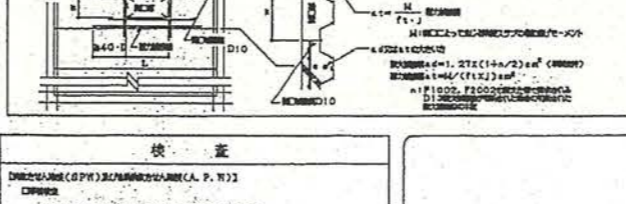
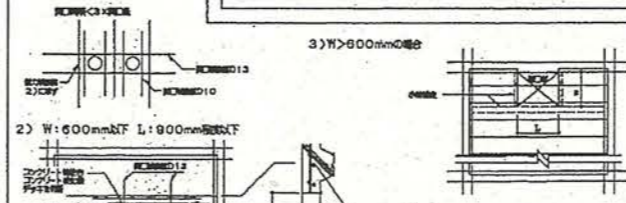
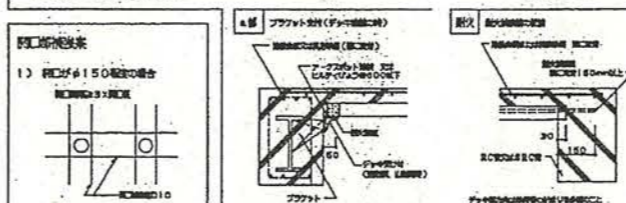
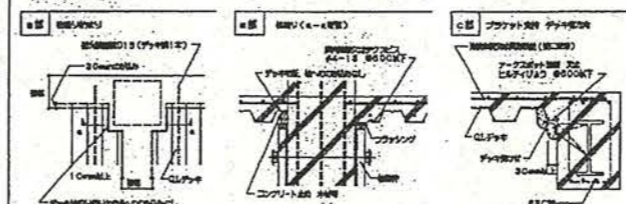
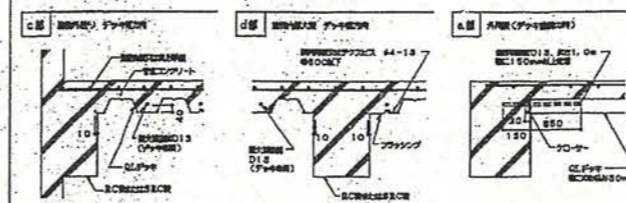
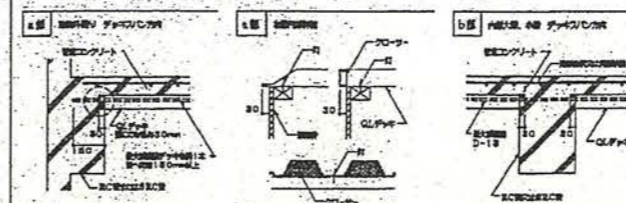
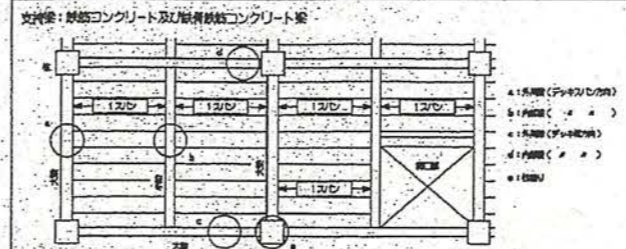
### 単筋支持合成スラブ

耐火仕様	コンクリート種別	デッキプレート	コンクリート厚	コンクリート種別	コンクリート厚	コンクリート種別	コンクリート厚
RC(F1002)	RC(F1002)	QL99-75	3.4m MF	RC(F1002)	80mm 以上	45-100x100	550kgf/cm <sup>2</sup> MF
	RC(F1002)	QL99-50	3.4m MF	RC(F1002)	80mm 以上	45-100x100	550kgf/cm <sup>2</sup> MF



1) カリシは設計図書に準じて実施する。RC(F1001)の場合は、RC(F1001)より20mm厚とする。RC(F2001)の場合は、RC(F2001)より25mm厚とする。  
2) カリシは、4mm径の鋼筋鉄筋を用いる。RC(F1001)の場合は、RC(F1001)より20mm厚とする。RC(F2001)の場合は、RC(F2001)より25mm厚とする。  
3) カリシは、4mm径の鋼筋鉄筋を用いる。RC(F1001)の場合は、RC(F1001)より20mm厚とする。RC(F2001)の場合は、RC(F2001)より25mm厚とする。

## 標準納まり



## 参考図

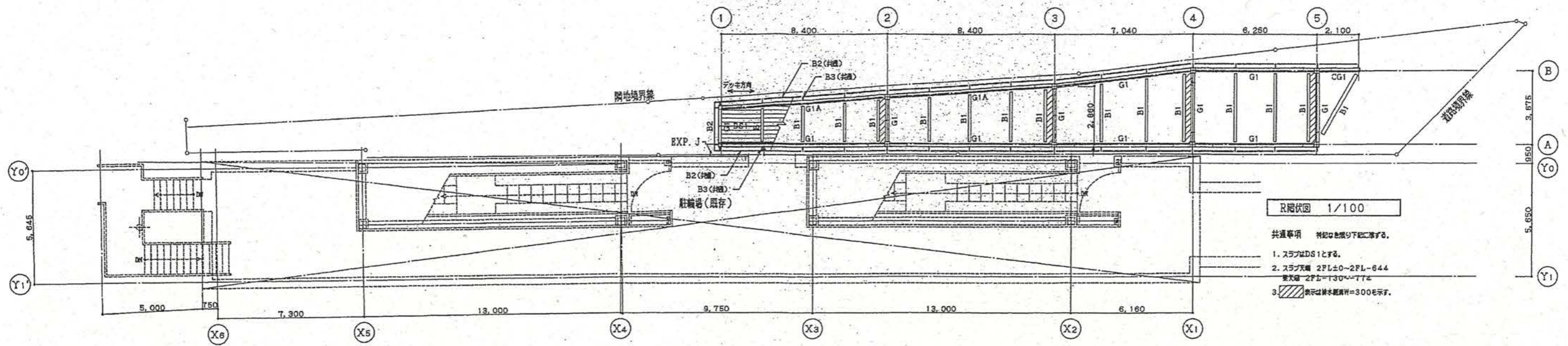
現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先して考えて頂きます様、お願い致します。

施工順序	取組み
1. 出し	1) 鋼製デッキ(または鋼製デッキ)をコンクリートに固定する(5-100)の位置に固定する。
2. デッキと鋼との接合	2) デッキと鋼との接合に鋼製デッキ(5-100)の位置に固定する。
3. 鋼製デッキの固定	3) デッキと鋼との接合に鋼製デッキ(5-100)の位置に固定する。
4. コンクリート打設	4) コンクリートを打設する。

仕様	標準・規格
1. 鋼製デッキ	鋼製デッキ(5-100)の位置に固定する。
2. コンクリート	コンクリート(210)の位置に固定する。

仕様	標準・規格
1. 鋼製デッキ	鋼製デッキ(5-100)の位置に固定する。
2. コンクリート	コンクリート(210)の位置に固定する。

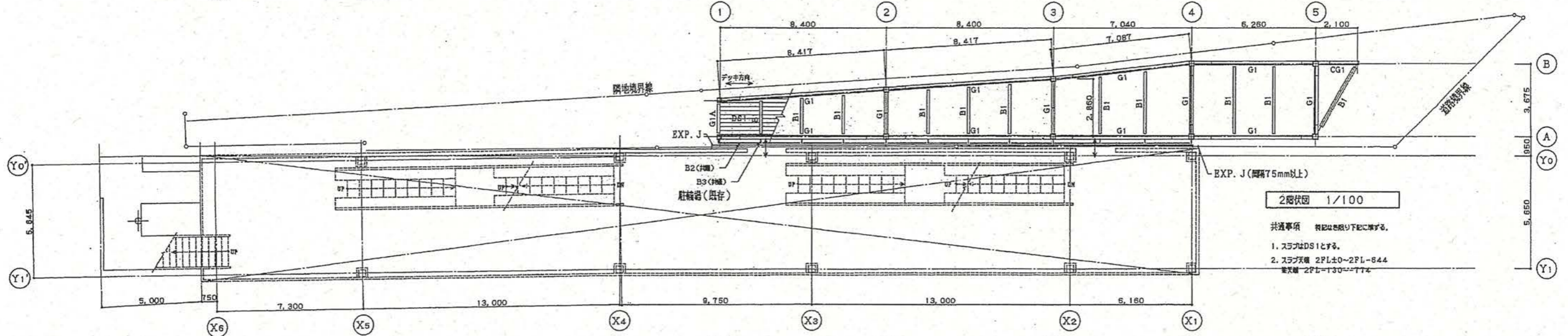
仕様	標準・規格
1. 鋼製デッキ	鋼製デッキ(5-100)の位置に固定する。
2. コンクリート	コンクリート(210)の位置に固定する。



**R階伏図 1/100**

共通事項 特記を限り下記に準ずる。

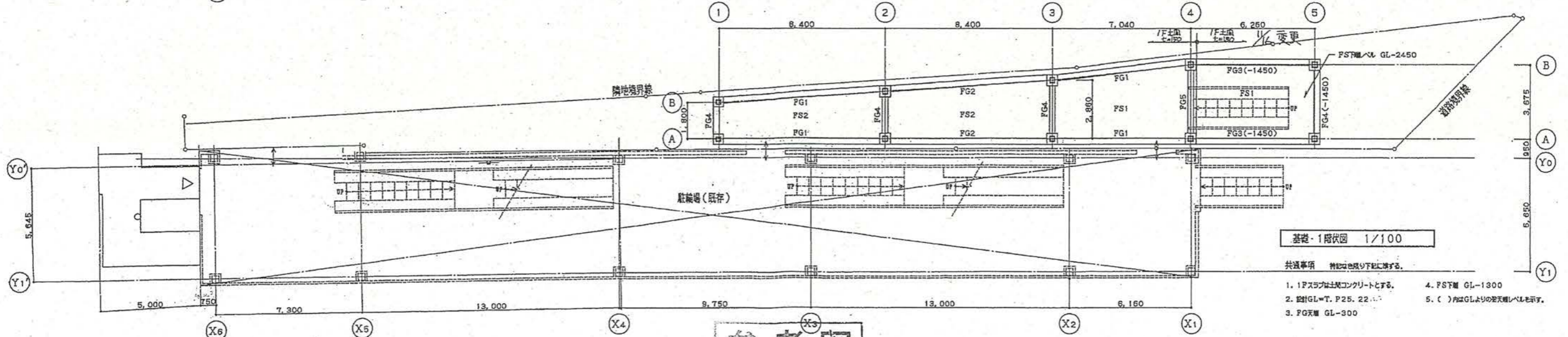
1. スラブはDS1とする。
2. スラブ天端 2FL±0~2FL-644  
梁天端 2FL±0~130~-774
3. 斜線は柱本線間隔=300を示す。



**2階伏図 1/100**

共通事項 特記を限り下記に準ずる。

1. スラブはDS1とする。
2. スラブ天端 2FL±0~2FL-644  
梁天端 2FL±0~130~-774



**基礎・1階伏図 1/100**

共通事項 特記を限り下記に準ずる。

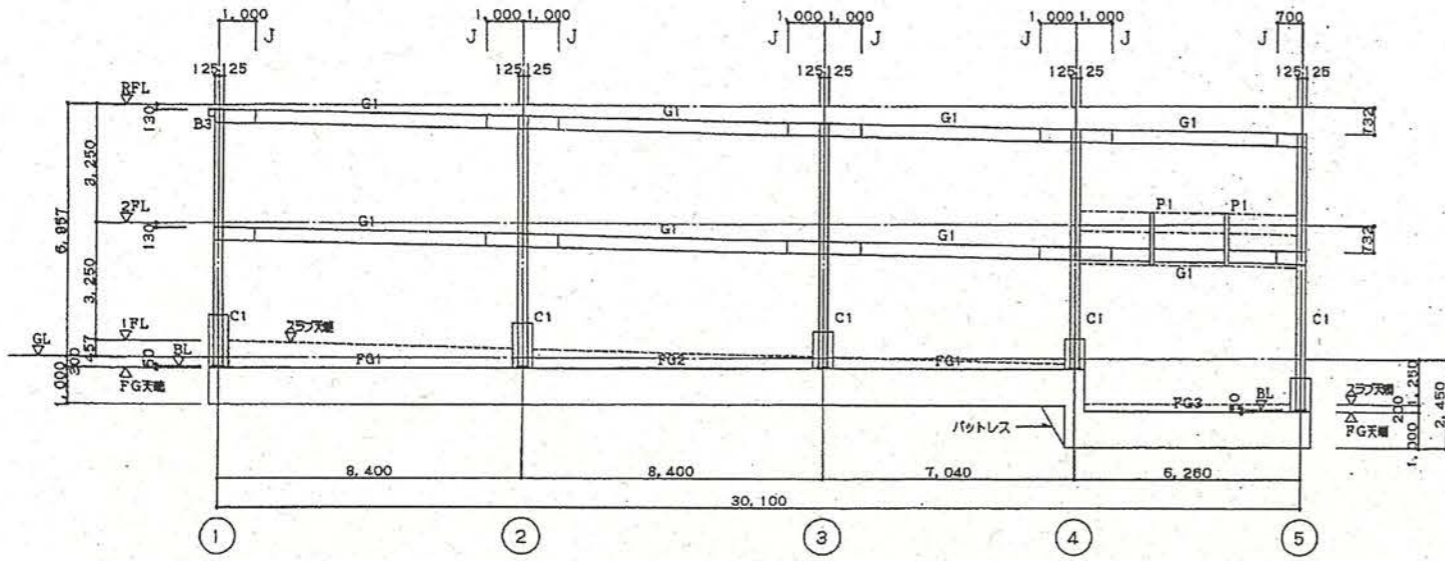
1. 1Fスラブは土留コンクリートとする。
2. 柱付GL=T. P25. 22
3. FG天端 GL-300
4. PS天端 GL-1300
5. ( )内はGLよりの梁天端レベルを示す。

**参考図**

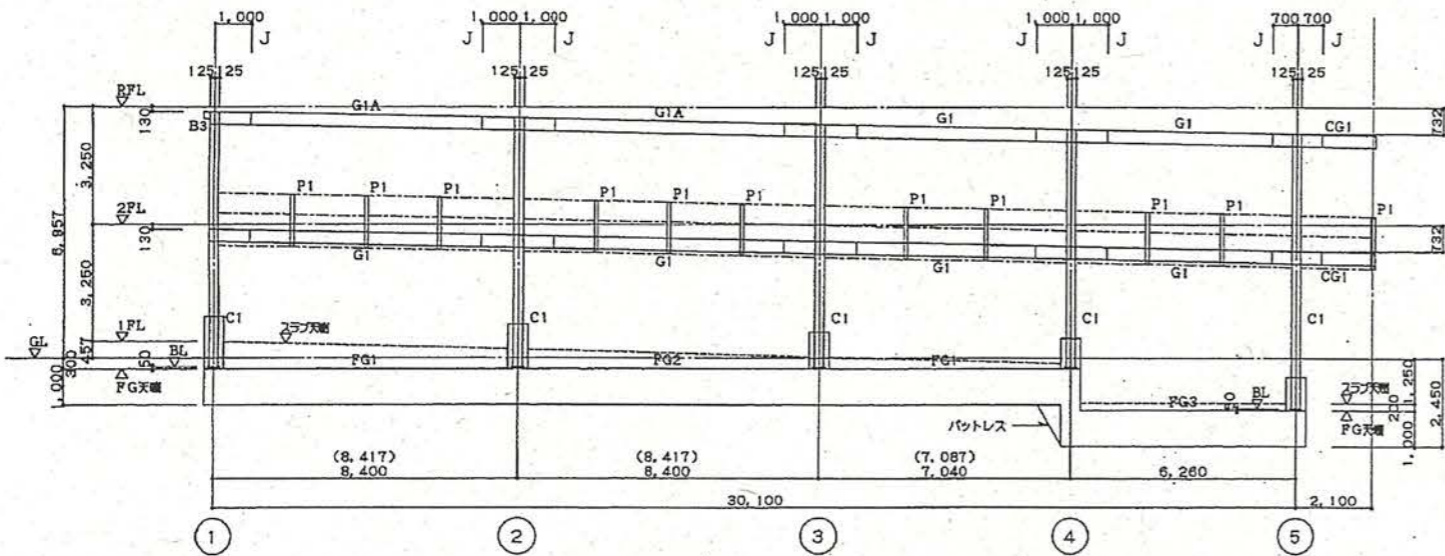
現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。

(名称)ニューシティ東戸塚中央駅 第2駐輪場増設工事	62-336	S-08
1、2、R階伏図	1/100	
設計者 鎌倉組一級建築士事務所 1級建築士 鎌倉組 鎌倉 鎌倉	99.9.30	





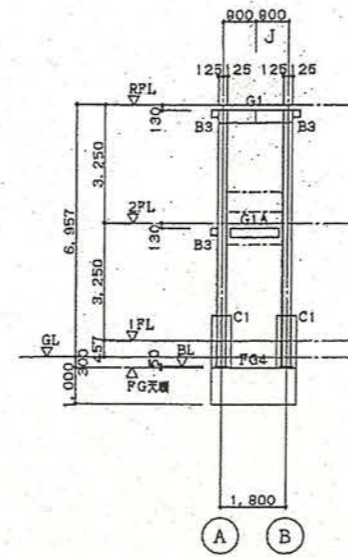
A通り軸組図 1/100



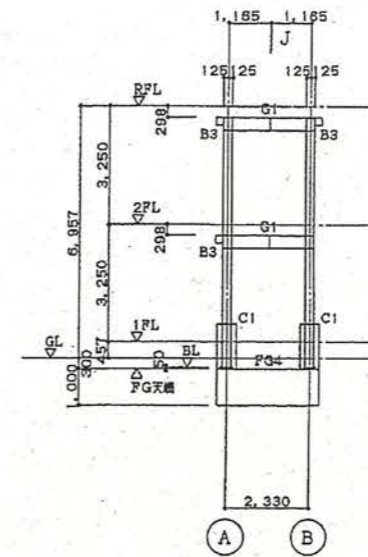
B通り軸組図 1/100

共通事項 斜線は色塗り下記に準ずる。

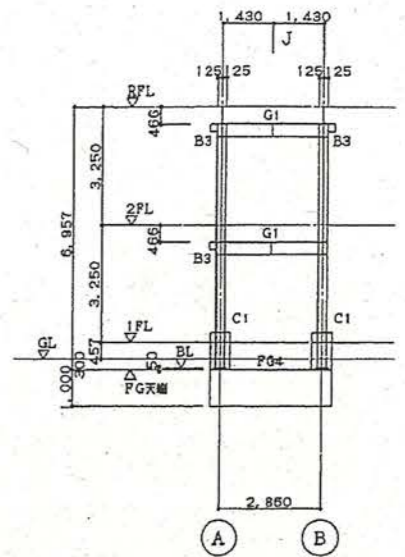
1. ( )内は実尺を示す。
2. BL表示はベースプレート下層を示す。
3. Jはジョイント位置を示す。
4. ---表示は断面φ800を示す。
5. 本図は1/100とする。
6. 1F土間コンクリート下層とFG天盤のレベル差は実尺で示す。
7. 斜線は天盤 1Fスラブ天盤+700とする。



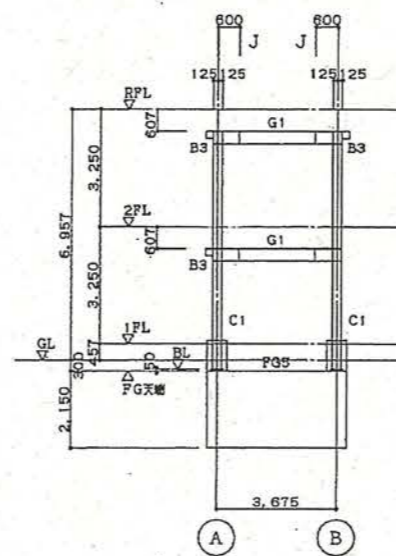
1通り軸組図



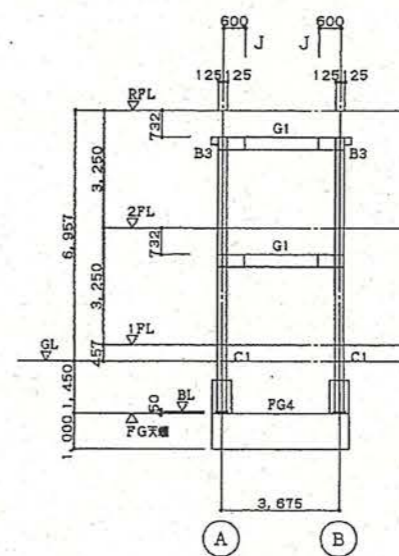
2通り軸組図



3通り軸組図



4通り軸組図



5通り軸組図

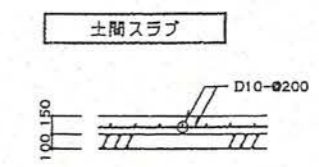
参考図

現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。

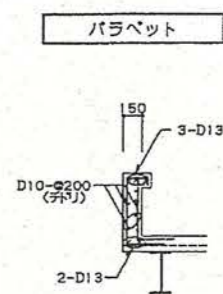
(仮称)ニューシティ東戸塚中央街区 第2駐車場増築工事	62-336	S-09
軸組図	1/100	
熊谷組一級建築士事務所 1級建築士登録第 424 号 熊谷 昭彦		99.9.30

地中梁リスト 1/30		特記なき限り ・補正筋 D10@1,000以内									
梁符号	FG1			FG2		FG3		FG4	FG5		
	1,4 端	中央	2,3 端	両端部	中央	両端部	中央	全断面	全断面		
断面											
B x D	300 x 1000			300 x 1000		300 x 1000		300 x 1000	300 x 2150		
上端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19		
下端筋	3-D19	3-D19	4-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19		
STIR	□-D10 @200			□-D10 @200		□-D10 @200		□-D10 @200	□-D10 @200		
腰筋	4-D10			4-D10		4-D10		4-D10	10-D10		

耐圧版リスト		FSの地盤				とする	
符号	版厚	位置	短辺方向		長辺方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
FS1	250	上端筋	D13-@150		D13-@200		モテアミ
		下端筋	D13-@150		D13-@200		
FS2	250	上端筋	D13-@200		D13-@250		モテアミ
		下端筋					



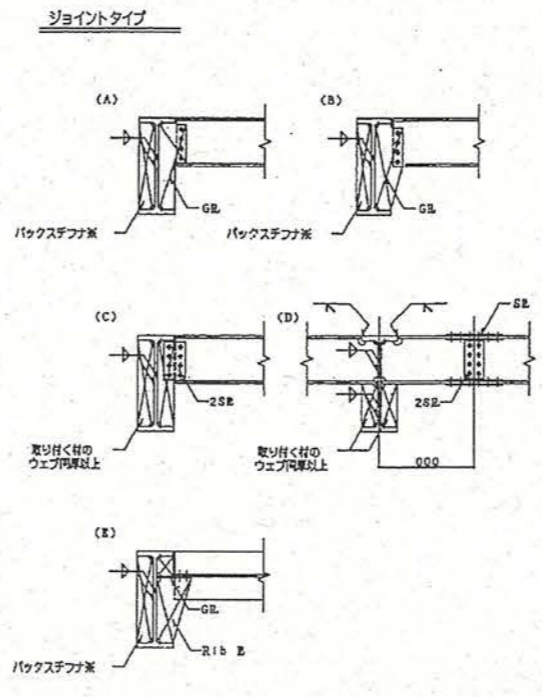
デッキスラブリスト		仕様		備考	
符号	厚さ	位置	仕様	備考	
DS1	50+80	上端筋	46x150x150	川島QLデッキ	
		下端筋		QL-99-50-12 F1001両用品	



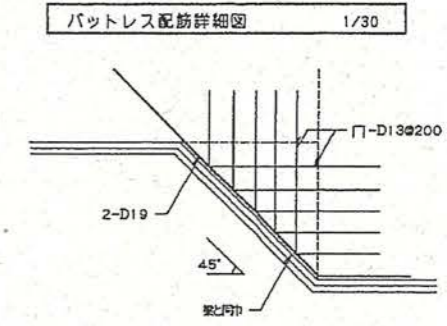
柱リスト 1/30		特記なき限り ・鉄骨主材 BCR295 ・アンカーボルトは二箇ナット締め、フック付とする。	
階	符号	C1	
2 階		□-250x250x16	
1 階		同上	
断面			
スタッドボルト		8x4面-φ19 @200 H=80	
板巻			
BxD		550x550	
主筋		8-D19	
フープ		D10 @100	
備考		柱筋フープ 2-D13	
柱脚			
ベースプレート		B, E-(19)	
アンカーボルト		4-M16 (L=640)	
備考			

大梁リスト		特記なき限り ・鉄骨主材 SS400 ・スタッドボルト φ16 @300(シングル) H=80			
符号	階	位置	部材	継手	
				フラグ	ウェブ
G1	R	全断面	H -346x174x 6x 9	S.E-1 E-9x170x405 S.E-2 2E-9x 65x405 H.T.B 6-M20	S.E-3 2E-6x185x220 H.T.B 3-M20
	2	全断面	同上	同上	同上
G1A	R	全断面	H -350x175x 7x11	S.E-1 E-9x170x405 S.E-2 2E-9x 65x405 H.T.B 6-M20	S.E-3 2E-6x185x220 H.T.B 3-M20
	2	全断面	H -346x174x 6x 9	—	ウェブ G.E-9 H.T.B 4-M20
CG1	R	全断面	H -346x174x 6x 9	S.E-1 E-9x170x405 S.E-2 2E-9x 65x405 H.T.B 6-M20	S.E-3 2E-6x185x220 H.T.B 3-M20
	2	全断面	同上	同上	同上

部材リスト		特記なき限り ・鉄骨主材 SS400		
符号	部材	ピン接合		備考
		タイプ	プレート	
B1	H -248x124x 5x 8	A	G.E-6 3-M16	
B2	[ -150x 75x6.5x10	A	G.E-6 2-M16	
B3	[ -150x 75x6.5x10	—	—	隅内池板
閉鎖	C-100x50x20x2.3 @600	—	—	取付ピース E-6 取付ボルト・ナット 2-M12
P1	H -100x100x 8x 8	A	G.E-6 3-M16	



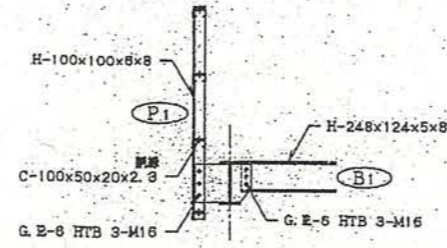
\* バックステフナは G 部 同厚とする。且し、200 以内の位置に G.E. が バックステフナ側にある場合は不変とする。



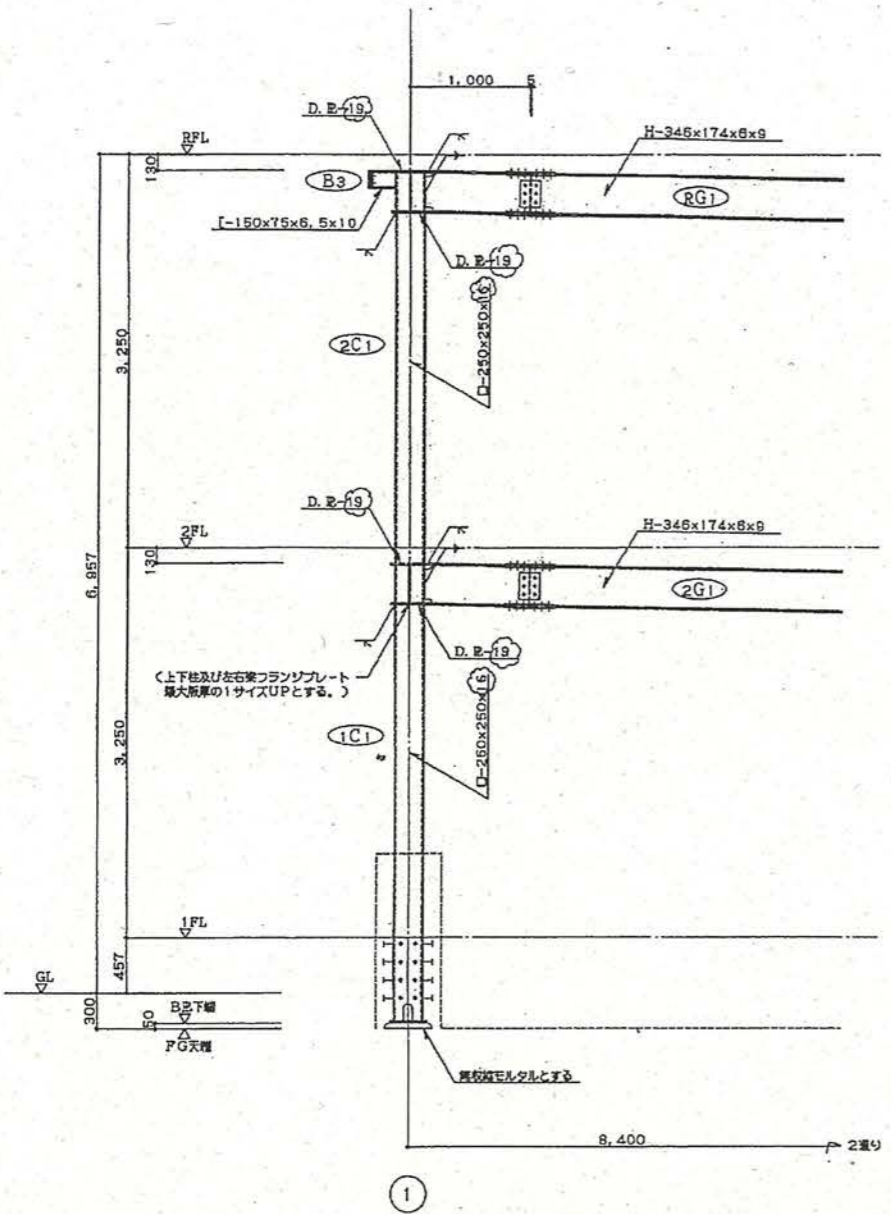
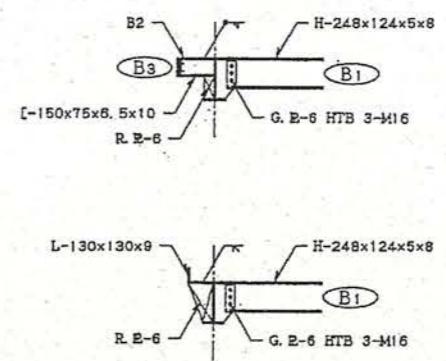
### 参考図

現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。 12月修正

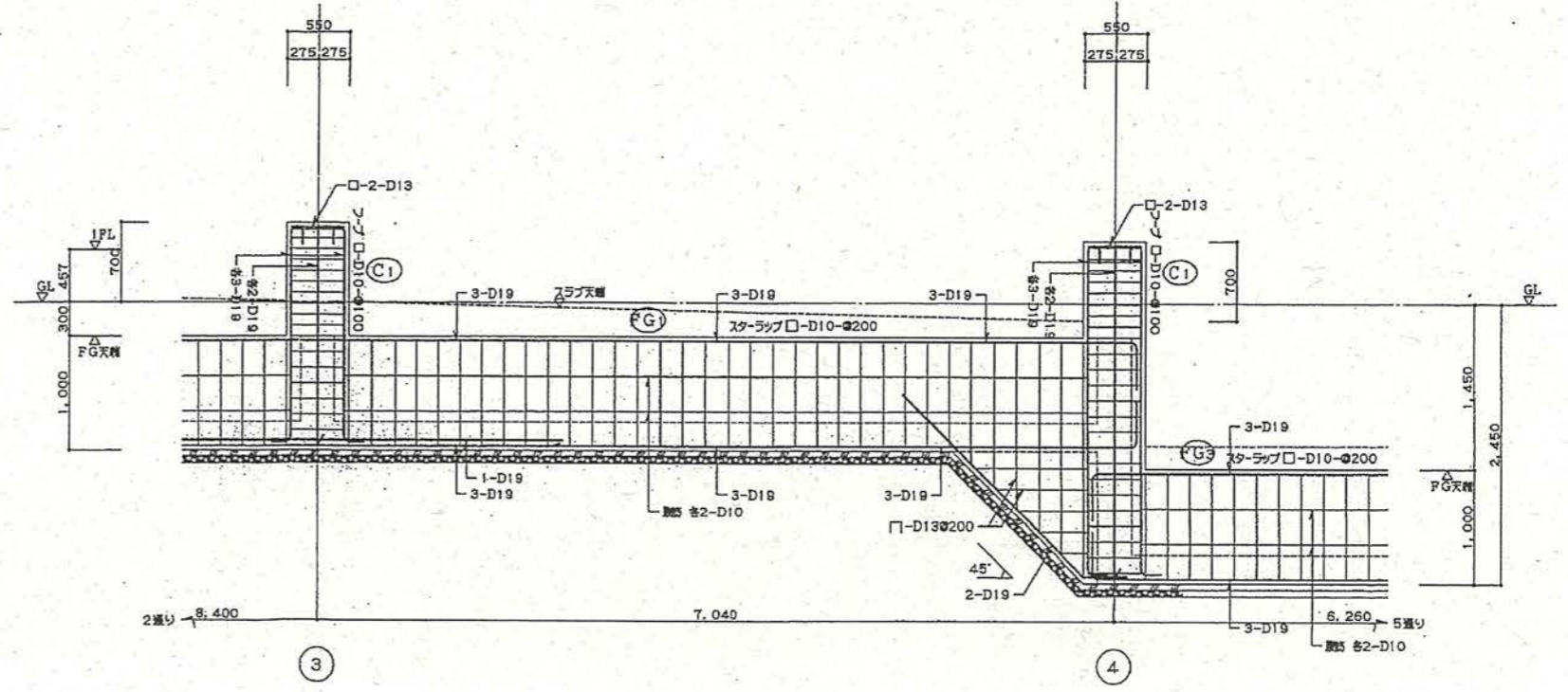
鋼桁パネル納り図 (P.1 詳細) 1/30



ハネ出し床納り図 1/30



A通り鉄骨詳細図 1/30  
 特記は省略  
 鉄骨主材: 種: PCR295  
 種: SS400  
 ダイアフラム: SN490C



A通りラーメン配筋詳細図 1/30  
 特記は省略  
 案内HOOP: 種: D10-φ150

参考図

現建物と本図に差異がある場合は、現建物を優先として考えて頂きます様、お願い致します。 12月17日

(仮称)ニューシティ東戸塚中央駅 第2駐車場増設工事	62-336	S-11
A通り鉄骨詳細図・ラーメン配筋詳細図	1/30	
設計組 一級建築士事務所 1級建築士 豊田 博 1級建築士 山口 知	99.11.4	